

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

綠色兵团 isbase 站

<p>ウェブサイトの名称</p>	 <p>綠色兵团 isbase 站 (綠色兵团 isbase 站)</p>
<p>URL</p>	<p>http://www.isbase.net/ http://bbs.isbase.net/ (フォーラム)</p>
<p>IP</p>	<p>210.52.223.31 (上海)</p>
<p>開設</p>	<p>2002年8月 (現在のWebサイト)</p>
<p>ICP ライセンス</p>	<p>沪 ICP 备 05001360 号</p>
<p>運営主体 (個人・組織)</p>	<p>龚蔚 (Goodwell) - 旧「綠色兵团」創設者 Isbase - 現在の「綠色兵团 isbase 站」運営者</p>
<p>運営主体による別サイト</p>	<p>http://t.qq.com/goodwell (Goodwell のブログ)</p>
<p>派生企業</p>	<p>NSFOCUS Information Technology Co., Ltd (北京中聯綠盟信息技術公司 / 绿盟科技)</p>

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

	日本では「NSFOCUS ジャパン株式会社」が 2011 年 1 月 15 日に設立されている。 (http://www.nsfocus.com/jp/)
運営主体の QQ 番号	
更新頻度	
会員数	112372 名
対日攻撃実績	○ (旧「緑色兵団」時代)
政治指向性評価	評価不能
備考	<p>- 中国のインターネット最初期で活動した、往年の代表的ハッカー・セキュリティグループ「緑色兵団」の古メンバーが開設している同名のグループ Web サイト。「旧・緑色兵団」は、技術指向型ハッカーのみならず、対日有害性を有するハックティヴィスト（ハッカー政治運動家）をも輩出している。</p> <p>現在の緑色兵団 Web サイトは、後述する「旧・緑色兵団」とは別のものであり、名実ともに「旧・緑色兵団」の面影はない。ただし今年 9 月に「旧・緑色兵団」の創始者・龚蔚（Goodwell）が開催した「COG 情報セキュリティフォーラム」に、来賓の 1 人として現在の緑色兵団 isbase 站運営者（Isbase）も参席している。このことから、Goodwell は現在の緑色兵団を少なくとも許容している様子がうかがえ、中国紅客聯盟の Lion が垂種組織の存在を事実上許さないのとは対照的といえる。</p> <p>- 組織沿革</p> <ul style="list-style-type: none"> * 1997 年、創始者 Goodwell が国外の無料 Web ホスティングサービスを取得し、さらに中国国内にミラーサイトを設置。名称を「緑色兵団」（グリーンベレーの意）とした。当時の URL は“http://i.am/hack1”。 * 1999 年 1 月 23 日、緑色兵団は上海で兵団の第 1 回年次例会を開催。 * 1999 年 7 月 15 日、緑色兵団はそれまでの非営利の方針を変更し商業化を果たす。会社組織化し「上海緑盟計算機网络安全技術有限公司」（上海緑盟）を設立、自社サーバーを保有する。ドメイン名に“isbase.com”を使用し、同年 10 月に登記完了。（“isbase”は“Internet Security Base”の略） * 2000 年 3 月、緑色兵団メンバーの一部が中聯会社と共同で別途に「北京中聯緑盟信息技术公司」（北京緑盟）を設立。これが現在の NSFOCUS 社（緑盟科技）である。 * 2000 年 7 月、上海緑盟（Goodwell ら）と北京緑盟（北京メンバーら。現 NSFOCUS）をめぐり緑色兵団内部の深刻な衝突により、2 つの緑盟の協力は完全に決裂。北京緑盟はドメイン名“nsfocus.com”を使用しはじめる。北京緑盟は上海緑盟を提訴。上海緑盟の敗訴により“isbase.com”は約 365 万円で北京緑盟に売却され、上海緑盟は解散。 * 2002 年 8 月、元緑色兵団メンバーにより新たに“isbase.net”ドメインが取得され、現在に至る。 <p>- ドメイン名の変遷</p>

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

- * <http://i.am/hack1> - 最初期（1997年当時に Goodwell が取得）
- * <http://www.isbase.com/> - 上海緑盟時代（現在停止）
- * <http://www.nsfocus.com/> - 中聯緑盟（現在の NSFOCUS 社）
- * <http://www.vertarmy.org/> - Goodwell がかつて取得したもの（現在廃止）
- * <http://www.isbase.net/> - 現在の緑色兵団 isbase 站（Goodwell も認める「旧・緑色兵団」の垂流）

- 現在の同組織にはあからさまな政治色や反日色は見られない。しかし旧緑色兵団から派生した「中国鷹派聯盟」をはじめとする極反日的組織との人的交流は深い。

- 新規アカウントは他メンバーの推薦が必要。また電子発刊物として「緑色兵団技術年刊」を発行している。近年の技術年刊および入手先は以下の通り。

* 「緑色兵団 2010-2011 年技術年刊」

<http://bbs.isbase.net/mag/isbase2011mag.rar>

* 「緑色兵団 2009-2010 年技術年刊」

<http://bbs.isbase.net/viewthread.php?tid=40261>

* 「緑色兵団 2008-2009 年技術年刊」

<http://bbs.isbase.net/thread-26286-1-6.html>

● 以下に中国で出版された書籍「沸騰 15 年 - 中国インターネット：1995-2009」から、緑色兵団に関する箇所を部分的に引用する。この記述で、同組織が内部決裂し事実上活動を停止するに至った経緯、そして龔蔚による「COG 情報セキュリティフォーラム」の開催へとつながる文脈を理解することができよう。

（括弧内は訳注）

1998 年 5 月にインドネシアで発生した華僑に対する虐殺暴動がなければ、緑色兵団も出現することはなかったであろうし、また政治的に活動する中国のハッカーが社会的に浮上することもなかったであろう。アメリカのハッカーコミュニティ…1970 年代の伝説的なホームブリューコンピュータクラブから、伝説的サイバー犯罪者ケビン・ミトニックが出現した 90 年代までの歴史はそのまま、アメリカの現在のハッカーコミュニティに引き継がれている。

だが中国では 1995 年になって、ようやくインターネットが始動したのである。当時、インターネットに関する技術資料で一般的に利用できるものは非常に乏しく、またネットワークに詳しい人材もごく少数であった。このとき中国語圏のインターネットに突如出現したのが“coolfire”を名乗る台湾人の青年、林正隆である。中国大陸で最も早い時期に現れたハッカーはみな、coolfire = 林正隆が中国語で著した「黑客入門教程系列」（ハッカー入門教程シリーズ）を読みつつ、インターネットセキュリティの世界へと足を踏み入れた。「黑客入門教程系列」こそは、中国語で書かれた初の「ハッカー教科書」だった。

現在、この「黑客入門教程系列」を振り返れば、その内容はきわめて初歩的である。だが文章はユーモアにあふれ、一見難解なネットワーク技術を親しみやすく翻案していた。そのため 1995 年当時、ハッキングに興味を持つ中国大陸の若者たちはみな、電話回線で Fido ネット（IBM PC 用電子メール交換ネットワーク）に接続し、こぞってこの「黑客入門教程系列」のコピーを入手しようと躍起になっていた。

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

この時期からインドネシア華人虐殺事件の報が中国大陸に伝えられるまではわずか3年。アメリカのように、技術的あるいは文化的な意味でハッカーコミュニティが成熟するために必要な時間をまったく経ないまま、初歩的な攻撃技術だけを独学した中国ハッカーたちが互いに呼びかけ合い、インドネシア政府のWebサイトを攻撃し始めた。

個人の人格形成と同様に、幼児体験がコミュニティの活動に大きく影響するのであれば、中国ハッカーのそれは「公共的動機」と「中華的愛国心による義挙」であった。「緑色兵団」創設者の龔蔚は、この対インドネシア攻撃を振り返り「攻撃を実行させたのは民族情緒だった。これは若者が有名になる興奮を妨げるものではなかった」と回顧する。Goodwellによれば、この攻撃を敢行した当時の中国ハッカーコミュニティは「利益のためでなく態度の表明のために攻撃する。データを盗み取る行為、あるいは悪意から相手のシステムを破壊する行為はしない」という、一般的な社会が許容できる通念を保持していた、という。

「緑色兵団」が創設されたのは1997年。上海のハッカー・龔蔚は“Goodwell”というハンドルネームで、国外の無料Webサイトにアカウントを申請。さらに国内の無料Webサイトをミラーサイトとして確保し、中国ハッカーたちの交流の場を開いた。これが緑色兵団の始まりである。龔蔚（Goodwell）によれば「すべては趣味、興味が元になっていた。もちろんまた、同じ道で切磋琢磨し合う快感も共有していた。利益とも、政治とも無関係だった」

緑色兵団という名称は、任天堂のファミリーコンピュータ用にコナミが開発した「グリーンベレー」（中国では「緑色兵団」として発売）というゲームと同じだ。しかしそこには「兵団の規律と規則をもって、緑あざやかで平和なネットワーク世界を作る」という、龔蔚の思い入れが込められている。

1998年は、緑色兵団の陣容がピークを迎えた1年であった。登録メンバーは5000人以上、核心メンバーだけでも100名を優に超え、メンバー分布も湖南、福建、広東、北京、上海など中国各地に及んでいた。また当時のメンバーには、いまでも中国ハッカー界の大御所である“rocky”、“solo”、“小魚”、“冰河”、“小榕”、“謝朝霞”らがいた。彼らは挑戦好きなネットワークマニアで、大学生か、あるいは卒業したばかりの20代前半の若者たちだった。中には自分のPCを持っていないため、大学の実験室に置かれたコンピューターの前で寝食を忘れた者もいる。

彼らは自らの課したハッカーの規範をかたくなに守り、極端に言えば雷鋒（1962年に22歳で亡くなった中国人民解放軍の模範兵士。文化大革命時代には「無私の象徴」として偶像化された）を崇拝しながら、ネットワーク技術の共有と相互扶助を主張した。好き勝手に攻撃すること、また金銭を話題にすることは恥であった。

しかしこの頃からすでに時流の変化が胎動し、アメリカで花開いたハッカー文化によって導かれた黒客文化は徹底的に覆されることになる。緑色兵団は登録メンバーの人数によってハッカー組織の価値を計る、というやり方を始め、これが後年、中国国内の他のハッカー組織が互いに競争し合う指標となったのである。

（中略）

商業化の種が一斉に蒔かれたのは、1998年から発生した一連の攻撃行動に始まる。客観的には、ネットワークのセキュリティに関する国民の意識を喚起させることもあった。ネットワークセキュリティ業界はこのときから発展し始めた。

1999年1月23日、緑色兵団は上海の延安東路128弄6号にある「星空网吧（星空ネットカフェ）」にて初めての年次総会を開いた。ネットバブル真っ盛りの当時、ネットワークセキュリティには巨大な市場があると認識されていた。緑色兵団のトップクラスのハッカーたちが握るハッキン

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

グ攻撃技術は防御技術に名前を変え、さらにセキュリティ技術へと変化した。

このころ、沈継業と名乗る説得役が現れた。資本を運営する北京人、という触れこみだった。彼は上海に駆けつけ、龚蔚(Goodwell)たち核心メンバーを説得し緑色兵団の運営を商業化しようとしていた。こうして緑色兵団は非営利の方針を変え、自ら「上海緑盟計算機网络安全技術有限公司」(上海緑盟)として商業化を果たした。

また2000年3月、緑色兵団は中聯公司との合同投資で、北京のメンバーに「北京中聯緑盟信息技术公司」(北京緑盟)を登記させた。

この年の7月、北京緑盟と上海緑盟との協力関係は内部メンバーらの衝突が原因で破綻、決裂した。そのため北京側は新たなドメイン名“nsfocus.com”を使い始めた。双方の衝突はあまりに激烈であり、互いに絶えずハッキング攻撃を実行するほどであった。

2000年8月末、北京緑盟は裁判所にて上海緑盟を提訴。上海緑盟は敗訴し、ただちに30万元(約365万円)でドメイン名“isbase.com”を売却し、人員を解散した。こののち、北京緑盟は“isbase.com”ドメイン名を停止してしまう。

分裂の原因については2つの見方がある。一つは北京緑盟が早くから成熟した商業運営を始めたそのいっぽうで、上海緑盟にいる緑色兵団メンバーは依然として自由自在なハッカーライフを放棄しなかった。これは当時のネットワーク上の対話と声明に見ることができる。彼ら上海緑盟は「中国初の非営利性ネットワークセキュリティ組織」を作りたいが、沈継業をはじめとする資本の力が紛糾を生み、最後は資本の力が勝ったのである。

もう一つの見方は、利益をめぐるいざこざである。龚蔚たち上海の核心メンバーは自分たちがこそ緑色兵団の創設者であると考え、自分たちの分け前が多くなるべきだと考えた。沈継業は既成の組織を商業化したのであり、ならば会社の規則に従って、カネに口を利かせるべきだ、ということだ。「おもに個人の利益のため」であった。

現在も北京中聯緑盟のトップである沈継業は取材の際に「(トラブルの原因は)龚蔚の私心があまりに大きいためだった」と述べる。「しかしネットワーク上での名声の高低で、企業内でのビジネスパーソンをはかる基準とすることはできない」

これ以後、緑色兵団は何度も紆余曲折を経て、ついにはWebサイトも消滅し、メンバーも散っていった。

だが、現在も緑色兵団は依然として存在するものの、それは単なる「たるんだ学術聯盟」だ、という者もいる。

生が現れ死が現れる、というのが、緑盟の盛衰についての観察者たちが考える原因だ。たった16名のメンバーしかいなかった組織が、非商業的であり独特の風格を持つハッカーとセキュリティサイトとして全方位に名を知られた。彼らの中国のネットワークセキュリティに対する突出した貢献により、内部の技術交流だけの年度会議は、中国民間セキュリティ業界の年度総会へと変わり、そして主流ベンダーや政府の承諾を一步一步獲得していった。メンバーたちによるセキュリティホルの発見は一つの国際的影響力を持つほど高度となり、“flashsky”、“funnywei”、“tk”、“watercloud”たちが、それぞれ関連する分野への造詣の深さから、中国の新世代ハッカーのリーダーたちになった。

だが、これはずっと後の話だ。



(林軍著：「沸騰十五年—中国互聯網：1995-2009 中信出版社刊」より、同組織に関する箇所を部分的に引用。括弧内は訳注)

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

中国首席安全官 / cncso

(旧偽「中国紅客聯盟」 - 1 (中国紅客聯盟 HUC-Lyon 站))

<p>ウェブサイトの名称</p>	 <p>中国首席安全官 - cncso 旧称は「中国紅客聯盟」(HUC-Lyon 站) / Honker Union Of China</p> <p><現在の「中国首席安全官」トップページ></p>  <p><旧「中国紅客聯盟」時代のトップページ></p>
<p>URL</p>	<p>http://www.cncso.com/</p>

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

	<p>http://www.x-bug.com/ http://www.honker.net/ (旧 URL)</p>
ドメイン登録情報	<p>・ cncso.com 登録名義人 : lyon (Li Yonghui) Email : lyon@cncso.com 住所 : 450000 河南省鄭州市民航路 19 電話 : +86.037165675208 Fax : +86.037165675208</p> <p>・ x-bug.com 登録名義人 : Li Yonghui Email : 82836769@qq.com 住所 : 浙江省杭州市西湖区華新路 99 号 電話 : +86 04276839781 Fax : +86 04276839781</p> <p>・ honker.net 登録名義人 : lyon Email : lyon@honker.net 住所 : 999077 香港九龍長沙灣道 7 2 電話 : +86 008526727571 0 Fax : +86 008526727571 0</p>
IP	218.29.188.137 (河南省鄭州市 聯通)
開設	<p>2011 年 11 月 1 日 : 現・中国首席安全官 2008 年～2011 年 10 月末 : 旧「中国紅客聯盟 Lyon 站時代」 2003 年～2006 年 : 中国黑客同盟会 (www.hackertop.com) 時代</p>
ICP ライセンス	豫 ICP 备 09015648 号 (旧「中国紅客聯盟 Lyon 站に割り当てられていたもの」)
運営主体 (個人・組織)	<p>Lyon (里昂) 本名は“Li Yonghui”と推定される 個人 QQ: 82836769 (82836769@qq.com)</p> <p>「中国首席安全官」 専用電話 : 13588877085 専用メールアドレス : fengliang.lyh@gmail.com</p>
QQ グループ等	<p>官方①群 : 3841530 官方②群 : 76936482 官方③群 : 141630059 セキュリティ対応 : 82836769 意見フィードバック : 82835389</p>
運営主体による別サ	

「中国対日有害サイバー組織総覧 2012」

※これはサンプルです。掲載項目や内容は変更されることがあります※

イト	
会員数	1775 名
政治指向性評価	評価なし（現在） ★（「中国紅客聯盟 Lyon 站時代」）
対日攻撃実績	なし。 中国ハッカーによるわが国への攻撃に関するニュース報道で筆頭にあげられる攻撃組織が中国紅客聯盟だが、報道する側の誤解が多々散見される。オリジナルの「紅客聯盟 HUC」が解散した2004 年末以降、「紅客」を冠した組織名で最も顕著な活動を示しているのが同組織だが、組織活動としての対日攻撃は一切行っていない。昨年の尖閣諸島問題をめぐる中国の対日サイバー攻撃の際も、この「旧・中国紅客聯盟 Lyon 站」は徹底して「対日攻撃不支持」を表明。会員に対日攻撃を強く禁じており、そのため不満を呈した一部会員を除名した経緯もある。 （この点で、Wikipedia 日本語版の「中国紅客連盟」の記述は誤り）
備考	（旧「中国紅客聯盟 Lyon 站時代」から現在まで） - 2003 年～2006 年に活動した「中国黑客同盟会（ www.hackertop.com ）」を前身とする。 - 運営者のハンドル名"Lyon"は本名の"Li Yonghui"を短縮したものと考えられる。 - "Lyon"は 2000 年にインターネットを使用開始。当時は大学生（詳細名未詳）であり、専攻は土木建築であったことを、自身の「旧「中国紅客聯盟 Lyon 站」」への投稿で明らかにしている。 - 核心メンバーに safe3、陈十三、银翼、小初、青云、fooying、jolin007、冷月星辰らが挙げられる。 - 華夏黑客同盟と友好関係にあると推測される。